

小川 弘二

ヒヤリハット： 1件あり

事故やヒヤリ・ハットの掲載は、私達京都田辺山友会のメンバーが常に安全登山に心がけ、事故を起こさない為に参考事例として公表しております。お互いに十分気をつけましょう。

報告書（事故／ヒヤリ・ハット）

提出先・山行部長殿（ヒヤリハットの場合）

2020 年 8 月 16 日

・役員会殿（事故の場合）

日 時	2020 年 8 月 16 日（日）	11 時 30 分頃
山 行 名	個人山行 神崎川沢登り	
C L と人数	C L : 小川弘二 総人数 : 10 名	
天 候	快晴	発生場所；神崎川(沢登り中)
事象の分類	滑落、転落・転倒、スリップ、道間違い、動・植物、落石（落水）、病気、体調不良、装備の不携帯、その他 <u>怪我 転落</u> 。 複数〇もあり	
内 容 (状況) (症状) (応急措置) (救助) (他)	沢登りの最中 ロープ使用の可能性を感じ岩場で作業中バランスを崩し約 1.0m 転落 落下時左足で踏ん張り フクロハギ を痛める。筋が伸びた？ 肉離れ？ 不明 現場にてスプレー後テーピングを施し自力歩行が出来目的地まで下山。 帰宅後腫れ 現在シップとテーピングにて様子見。	
受 傷	有／無 （“有”の場合その症状及び傷病名） 骨折、捻挫、打撲、外傷、凍傷、	
原 因	（気象・装備不足・技術不足・体力不足・準備不足・地図不携帯・不注意・他） しっかりと作業スペースと足場確保を怠ったのが原因	
反 省 点	① リックよりロープ等出し入れの際安全な場所での作業を行う事が必須。	

・「かんなび」に掲載する時は報告者の氏名は伏せて掲載いたします。又、報告を受けた後、役員会で内容をチェック

連日の猛暑の夏休み。一步も外に出ない日もありました。
そんな夏休みの最終日。なまった体に鞭打って今回の企画に初挑戦することにしました。

靴だけは購入必要とのこと。ヒマラヤ、スポデポ、コージツ、ワークマン、何処を探しても見つからず諦めかけていたところ、モンベルでやっと遭遇。無事参加できることになりました。

沢まで一時間歩くと聞いていたのですが、ワクワク歩いている内に一瞬で沢に到着。
靴を履き替え、沢に入るやいなやオオサンショウウオがお出迎え。とても綺麗な川でした。

最初ひざくらいの深さを歩くのかと思っていましたが、油断していると、急に足がつかず鼻に水が入ることもしばしば。足がつかない区間は大概 10 メートル程度なので、泳げない距離ではないのですが、何度も続くと、溺れそうになることも多々。こんなに必死に泳いだのも何年ぶりかも知れない。

疲れてくると顔を上げっぱなしにできず、何度となく顔をつけて泳ぐことに。
そのとき視界に広がるのはエメラルドグリーンに輝く世界。残念ながら味わう余裕はなかった。



泳ぎの後に待ち構えるのはいつも滝。疲労した体に鞭打ち、体に叩きつける急流に逆らって岩稜登り。Y 懸で覚えてたての知識を駆使して登りきる。もしくは流され泳ぐところからやり直し。落ちても生きてる。しかも超気持ちいい。これは Y 懸の数倍楽しいかも。

最初は手を貸してもらってやっと登れた滝も、だんだんコツが掴めて一人で登れる様になる。登っては飛び込みを何度も繰り返すうちに疲労もピーク。でも本人はまだ気づいていない。

昼休憩もまた水の中。炎天下の下、肩まで冷たい水につかって食べるお昼は最高。
冬に入る温泉と、夏に入る河川。どちらが本当の幸福だろうか？

最後まで時間の許す限り沢を登って降りてくる。終了間際には数メートル歩いては転倒を繰り返す。でも水の上なので誰にも気付かれない。いっそのこと寝そべったまま流れに身を任せてみる。これもまた格別。自然との一体感。

体温が上がらないので、体温調節不要。汗もかかないので水分補給は最小限。塩分補給も不要。
これまで何故、夏に、暑さをこらえ汗をかきながら低山を登っていたのだろう。
山は涼しいとき雪の積もったときに登るもので、夏に登るべきは沢ではないだろうか。

そんなことを自問自答しながら、沢ロス気分に浸っています。

天気は快晴・夏の真っ盛りで低山の登りには向かないが、沢登りには最高の条件に恵まれた。先週の岩籠山の沢に続いて、2 週連続。案内は初級となっていたが、ネットで見ると泳ぐ所もあり、初級とは思えない。しかし、水はどこまでも綺麗で、白い岩の連続。

沢靴は2 回目の筆おろし。同じ2 回目のWさんの強いさそい。リーダーも頼りがいあるし、力持ちもいる。足手まといになる可能性は十分あるが参加を決心した。

それまでの天候で沢は同じでも初級にもなるし上級にもなることを知る。沢沿いの道を暫く行くと、涸沢となる。大きな堰堤で取り水しているので水がないのだとの説明に納得し、堰堤先の水音でほっとする。前回、この沢に入った時の水位は今日より 1 m 以上もあったそうだ。

首まで浸かることも新鮮・犬かきするも水流で押されてちっとも進まない・リュックを浮き袋にしてバタ足だと進むが、やはりロープで引っ張ってもら・バランスくずしての水没もまた楽しい・・・・・・老少年となって夏を楽しめた。元少年・元少女達の歓声も楽しさを倍にしてくれた。岩を渡る時や急な斜面を登る時には足が短いのはかなり不利だった。岩移りの時の平衡感覚の衰えも感じる。

ブヨに刺された跡はゼロで小さなスリ傷跡は一か所のみで、皆さまのおかげで無事に第二回目の沢歩きをエンジョイでき感謝いたします。

翌日の筋肉痛は山登りと違い、あちこちが痛み、しかも 10 時間以上寝た。残念だったのは、CL が遺影にオススメと沢入りの勇姿を折角撮って下さったのに、カメラを流れに取られたそうで、遺影作成も 1 年先送り。又来年も行きたくなりました。追伸＞ 写真は大丈夫でした。遺影写真に使えますよ！ 小川



一口感想分

渡邊 久美

今回は入会後 2 回目の沢登り参加。入会前にも沢登りの経験はありましたが、今回ほどリラックスした沢登りは初めてでした。

沢登りで泳ぐとは言ってもへつれない所を泳ぐ程度しか泳いだ事がなかったので、皆さんの泳ぎまくり、楽しみまくっていた姿にちょっと感動。

純粹に沢を満喫されていました。

沢登りと言うとハードルが高い感じがしますが、経験のない皆様も参加されてはいいかどうか？



先週の福井県岩籠山の沢とは比較に成らない？

本格的な 沢に 今回2度目のチャレンジ

今回エントリーの沢 レベルは 初級コースとの事も谷は深く周りの環境を見ると 『ほんまかいな』

疑心暗鬼に水辺に第一歩踏み入れる。地上との気温差(マイナス15度C)を体感 何と 清々しい 適量の水量と綺麗な水 すぐに虜に上流に上がるに従って難度UP。

足の届かない箇所を泳いで移動。子供に戻ったようなあどけない容姿。

自然に触れるのは本当に良いな一。そんな実感で沢歩きを楽しむ事が出来た。

しかし、2度目の挑戦。沢歩き先輩より諸事アドバイスを受けながら対応したつもりも、実際は沢対策を自分自身出来ておらず ①ビニール袋の中は水浸し ②虫(アブ)が沢山発生しているので要注意も過去に体験した事が無く安易に対処。

結果は散々 帰宅してから確認 10ヶ所 アブの被害。 今は 痒み対策中 一週間は覚悟？

アブは 赤色と黒色を好む様で今回の服装(半ズボンと黒のタイツ)も来年はファッションから見直しして先週福井ツワーにて足長蜂に刺され今回はアブに刺され 虫対策を是非改善しなければならないと強く感じた沢歩きで有った。

自分の不注意でご心配お掛けして誠に申し訳有りませんでした。又、沢では色々とサポート頂き、登山とは違う沢の楽しみを教えて頂き有難うございました。



一口感想文

吉澤 珠美

今年は何回も沢に行く機会に恵まれ満喫出来ました。

神崎川は、娯楽性に富んだ沢登りを楽しめました。

それぞれが自分スタイルで沢に向かい合うのがいつもの山行と違うところだと感じました。



その他写真

